

[研修報告]

多職種連携ハイブリッドシミュレータ SCENARIO を活用した研修

看護部

檀上 恵美子

要 旨 シミュレーション教育は、模擬的体験により知識と行動の統合ができ、判断力と対応力の向上につながるなど教育効果が高いとされている。看護部では看護師の看護実践力の向上を目指し卒業2年目の看護師と看護主任を対象に、多職種連携ハイブリッドシミュレータ SCENARIO（以下：SCENARIO）を活用した研修を実施した。研修終了後のアンケートでは「臨床の場面に近い患者設定でリアリティがある」「実際に遭遇しそうな場面で実践に活かすことができる」などの意見があった。SCENARIO の活用により、実際の状況に近く臨場感があり実践で活かせる研修となったと考える。シミュレータは他施設に設置してあるため、研修場所への移動が必要となる。参加者から自施設で同様の研修を希望する意見もあり、今後の SCENARIO の活用と研修の在り方について検討が必要である。

Key words : シミュレーション教育, 看護教育, 教育効果

はじめに

シミュレーション教育とは、「臨床でのあらゆる状況を模擬的に再現して、その状況下で学習者が実際に体験をし、体験を通してのディスカッションや専門的な知識の確認などの学習を通して、専門家としての実践力を向上していく教育技法である」¹⁾。

当院では看護部教育として2023年より、看護師の判断力・対応力の向上とアセスメント能力の向上を目的として、SCENARIO を活用した研修を実施している。SCENARIO は、実際の症例に近い患者設定のシナリオが内蔵されており、患者の状態変化や看護ケアに合わせてバイタルサインが変化する。これにより臨床の場で起こり得る状況を模擬的に体験し、臨場感のある研修ができる。これまでに3回

の研修を実施した。そこで今回、研修の内容と今後の課題を報告する。

SCENARIO について

今回、研修に使用したシミュレータは広島県内に3台あり、公益社団法人広島県看護協会（以下：広島県看護協会）が保管・管理をする。設置場所は、①広島県看護協会、②福山市民病院、③庄原日赤病院の3施設である。精密機器のため設置型となり持出禁止で、設置場所で研修を行うことが条件である。研修を実施する場合は、広島県看護協会の定める借用等の手続きが必要である。本研修では近隣の福山市民病院の SCENARIO を借用したため、研修場所は福山市民病院となった。

研修方法

研修開催月、対象者、研修会名、目的を表にまとめた(表 1)。研修時間は午後 13 時から 16 時 30 分とした。

研修の指導者は当院の集中ケア認定看護師 2 名である。この 2 名は事前に、広島県看護協会主催の「シミュレーション研修の指導者養成プログラム」(2 日間)の研修を受講し、ハイブリッドシミュレータを使用したシミュレーション研修を実施するための基礎知識を習得している。

研修の構成は、①オリエンテーション、②デモストレーション、③ロールプレイ 5 分とデブリーフィング 10 分、④まとめとした。ロールプレイの患者設定とシナリオは、参加者の配属部署と実際に関わる患者像を踏まえて選定した。ロールプレイは、看護師役 1 名、記録係 2 名とし、記録係は看護師役の行動記録を模造紙に記録する。行動記録は、看護師役が観察した内容、バイタルサイン、行動内容を記録し、デブリーフィングで振り返りをする際に活用した。

(1) 卒後 2 年目の看護師の研修 (以下: 卒後 2 年目研修)

初回の卒後 2 年目研修では、入職後の新人看護師研修で学んだ知識と看護技術を活用して確実なフィジカルアセスメントの実践と応用ができることを目標とした。

ロールプレイの患者設定とシナリオは、SCENARIO に内蔵されている既存のシナリオを活用した (内蔵シナリオは京都科学担当者より提供)。

ロールプレイでは、患者の観察の視点としてフィジカルアセスメントの基本である「見る・聴く・触れる」を確実に実践した。これには SCENARIO の機能である顔色の変化、脈拍触知、呼吸音聴取、観察したバイタルサインと心電図波形が表示されるモニタ画面を活用した。また看護ケアの実施により患者の状態とバイタルサインが変化する機能も活用した。デブリーフィングでは、フィジカルアセスメントで観察した内容と患者の状態を関連付けて考える思考過程を言語化した。

2 回目の卒後 2 年目研修では、参加者の「心電図について学びたい」とのニーズがあり、前述のシナリオの選定に加えて心電図波形の判読と波形変化があるシナリオを取り入れた。そして、まとめはフィジカルアセスメントと心電図波形を中心とした内容とした。

(2) 看護主任を対象とした研修

卒後 2 年目の看護師が、臨床の場で学びを活かせるよう支援するために、指導的立場にある看護師の教育も必要と考えた。

そこで全部署の看護師経験年数 3 年目以上の看護師を対象として、研修会に対する参加の希望についてアンケート調査を実施した。結果、参加希望者は経験年数 16 年～ 20 年目の看護師が最も多く、その中の職位で最も多かった看護主任とした。

研修では、自己のフィジカルアセスメント技術の再確認と根拠に基づくアセスメントを習得し、臨床での指導に活かせることを目標とした。

表 1 研修会の対象者と研修目的

開催月	対象者		
2023 年 5 月	卒後 2 年目 7 名	研修会名	即！明日から実践！ バイタルサインの変化から読み取る患者の状態変化と対応
		目的	①フィジカルアセスメントの知識を患者に応用する方法を習得する ②疑似体験を通して患者の状態観察と状態変化時の対応を習得する
2023 年 11 月	看護主任 8 名	研修会名	現場のリーダーが学ぶ！フィジカルアセスメント
		目的	①フィジカルアセスメントの基本を再学習し、確実な観察と根拠に基づくアセスメントを実践する ②教育的立場でスタッフと関わり学びをスタッフの指導へ役立てる
2024 年 5 月	卒後 2 年目 16 名	研修会名	即！臨床で役立つアセスメント ～バイタルサインの変化から読み取る患者の状態変化と対応～
		目的	①フィジカルアセスメントを患者に応用するための知識を習得する ②疑似体験を通して状態を予測し対処するための知識と技術を習得する ③アセスメントを言語化し共有することで知識を深める

SCENARIO の内蔵シナリオは、新人から卒後 2～3 年目を対象とした患者設定のため、研修開催にあたり当院独自のシナリオを作成した。患者設定は指導者の 2 名で検討し、臨床で対応する患者像と患者の状況、バイタルサインの変化からより高度なアセスメントが必要となる内容とした。シナリオの作成は京都科学担当者の協力を得て「尾道市立市民病院監修シナリオ」として、SCENARIO にデータ保存しロールプレイを実施した。アセスメントの言語化に関しては、自己の行動記録を客観的に振り返る中で、一つずつ関連付けて思考を整理できるようデブリーフィングを行った。

(3) 研修後のアンケート結果

卒後 2 年目研修では、【研修内容の理解】は 16 名

全員が「理解できた」と回答した (図 1)。【研修会の目的達成】は「達成できた」12 名、「大体達成できた」4 名であった (図 2)。【今後もこの研修会があれば参加するか】の問いでは、全員が「はい」と回答した (図 3)。この理由に、「実際の現場でも活かせるアセスメントが学べた」「自分の思考、行動を振り返ることができアセスメント能力が身につく」「経験していない場面のアセスメントもしたので次に対応できる」「一人では気づかないことも気づける」などがあった。【その他・意見】は、「自分の普段の観察を振り返って足りない観察項目が明確になった」「一つひとつの観察に根拠があることを改めて理解することができた」などがあった。また「定期的開催してほしい」との意見もあった。研修会

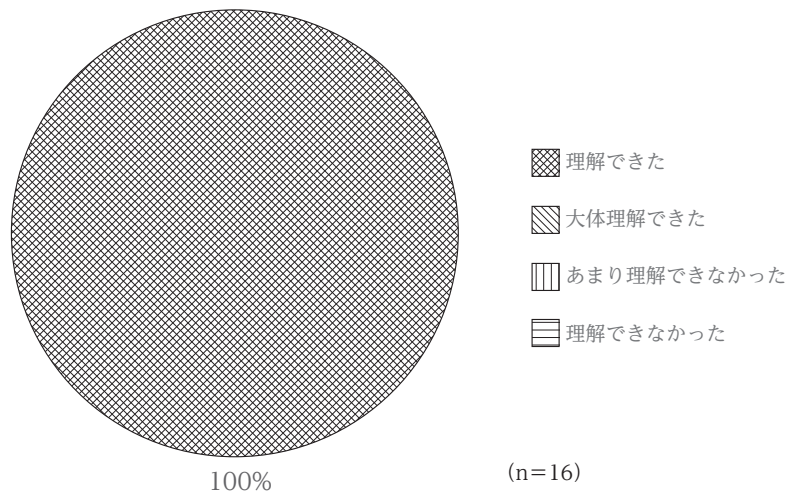


図 1 研修内容の理解度 (卒後 2 年目)

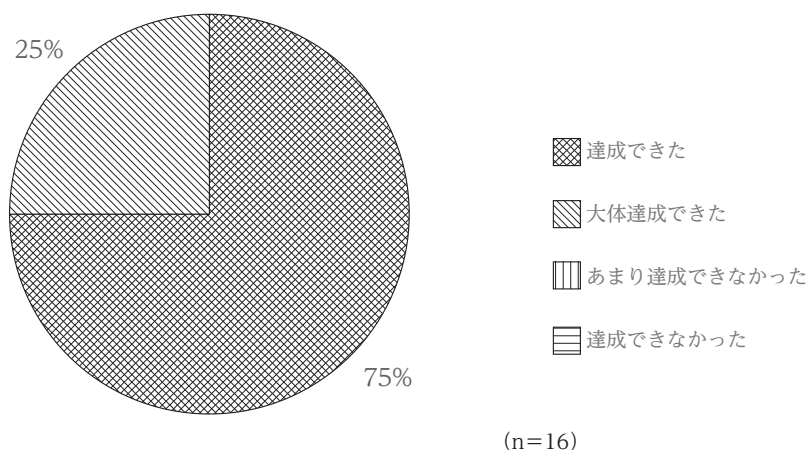


図 2 研修会の目的達成 (卒後 2 年目)

の開催時期については、「もっと早い時期がよい」と、入職後1年目に同様の研修を希望する意見がほとんどであった。

看護主任を対象とした研修では【研修内容の理解】は「理解できた」5名、「大体理解できた」3名であった(図4)。「研修会の目的達成」は「達成できた」5名、「だいたい達成できた」3名であった(図5)。「研修会をスタッフや同僚に勧めたいと思うか」は、「はい」7名、「どちらでもない」1名であった(図6)。この理由に「普段、自分がどのように考え行動しているかを客観的に評価し振り返りができる」「実践向きでリアリティがある。現実的である」「楽しくフィジカルアセスメントが学べる。目的が達成できる」などがあった。【その他・意見】は「臨床

で起こりそうなシナリオで研修を通して根拠あるケアの重要性について学べた」「実際に遭遇しそうな場面で実践に活かすことができる」「移動は必要だがSCENARIOを使用した研修は他施設へ行く価値があると思う」などがあった。また、「同じ主任同士で意見が言いやすかった」「発言しやすい雰囲気、振り返りのやり方も勉強になった」などもあった。

考 察

アンケートの結果から、研修内容が理解でき本研修の目的は概ね達成できたと考える。

参加者の意見から、経験していない場面を模擬的に体験することで、実際に臨床で体験した場合の考え方や対応を学ぶことができたと考える。これは、

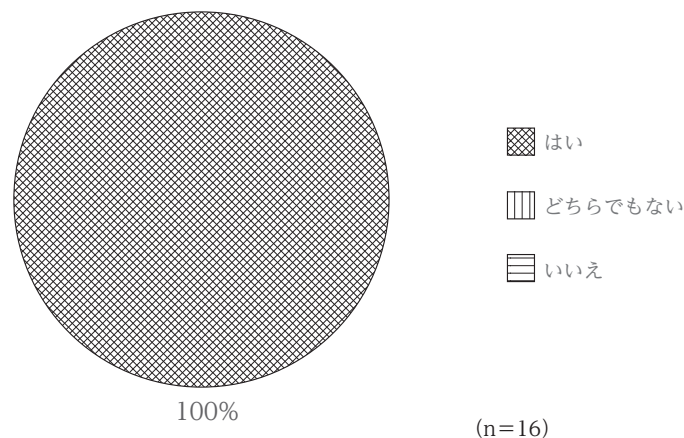


図3 次回もこの研修会へ参加するか(卒後3年目)

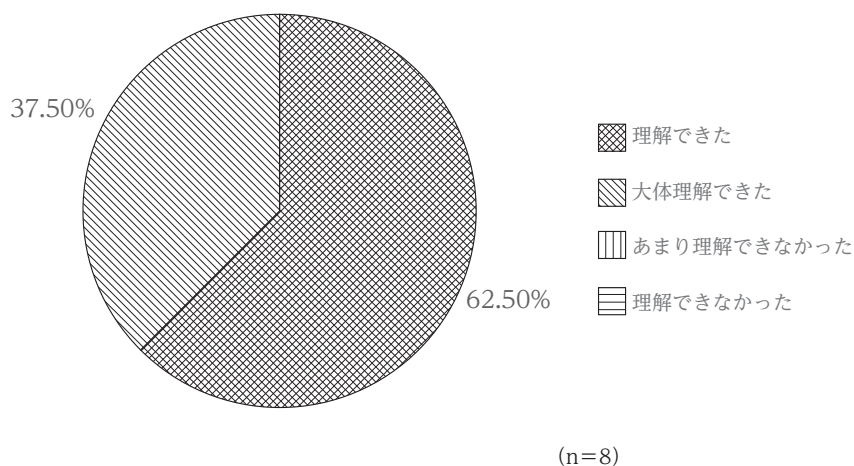


図4 研修内容の理解度(看護主任)

SCENARIO を用いた研修の効果の1つである。内藤らはシナリオ作成に必要なスキルとして、学習者のニーズとレディネスを的確に捉える力が必要と述べている²⁾。研修で活用する患者設定とシナリオは、対象者の背景から検討し作成した。2回目の卒後2年目研修では「心電図を学びたい」とのニーズに対応したシナリオを取り入れた。このことが参加者の学習意欲を高め、研修目標の達成につながったと考える。

シミュレーション研修ではデブリーフィングが重要となる。内藤らはデブリーフィングについて、学習者がとった行動の裏に隠されている思考をその場で探り、その行動を丁寧に振り返り確認していくことで「気づき」が生まれる。そして、一人では気づ

かないこともチームで力を合わせ振り返ることに意義があると述べている³⁾。デブリーフィングは、参加者を同期入職や同じ立場にある看護主任としたことにより、話しやすい環境であったと考える。また行動の記録により、行動と思考の見える化ができ、振り返りで活用することで学びの共有ができた。このことから振り返りで意見交換ができ、他者の意見から「気づき」を得て自己の学びにつながったと考える。

また看護主任は振り返りにおいて、自らの知識と行動を統合し根拠あるケアやアセスメントのみでなく、振り返りの方法についても学びを深めていた。看護主任は臨床で指導的立場にあり、院内研修会では指導者としての役割を持つ。研修を通して、看護

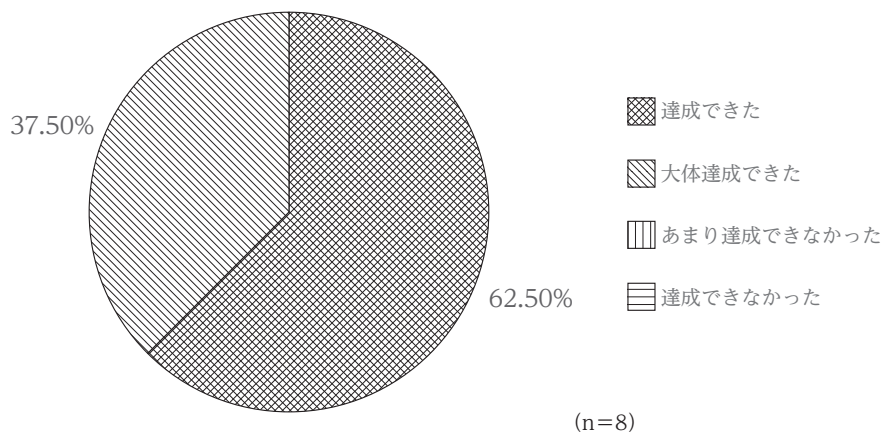


図5 研修会の目的達成 (看護主任)

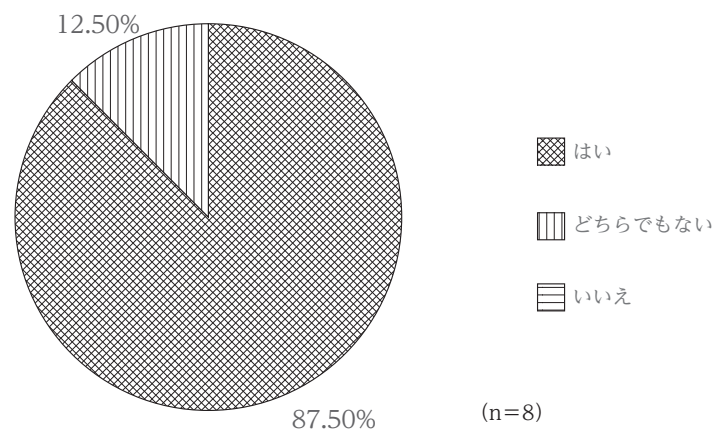


図6 研修会をスタッフや同僚に勧めたいと思うか (看護主任)

主任は観察力と思考力、柔軟性を兼ね備えていることがわかり、本研修が指導者としても自己成長につながったと考える。このことは臨床で指導的な立場にある看護師を対象に研修を実施する意図に合致しており、看護主任を対象としたことは効果的であったと考える。

今後の課題

研修を振り返り今後の課題を2点挙げる。まず1点目は、デブリーフィングとSCENARIOの操作には訓練が必要とされ、指導者の技量が求められることである。本研修では指導者の2名は事前に研修を受講し、デブリーフィングの技法とSCENARIOの操作を習得していた。しかし実践する機会が限られており、特にSCENARIOの操作技術の向上が難しい。SCENARIOには様々な機能があり、操作技術を向上することでより臨場感のある効果的な研修が実践できる。そしてデブリーフィングは、シミュレーション教育において最も重要とされる。参加者から実践に活かせる学びを引き出すために、指導者は今後もシミュレーション研修等を受講し研鑽を重ねて、シミュレーション技術の向上を目指す必要がある。

次に研修場所が院外の外施設になることである。研修会の参加には、他施設への移動に要する時間や費用の負担が発生する。研修会のアンケートに、院内で同様の研修を希望する意見があった。

SCENARIOは設置型のため、他施設への移動は必然となる。当院にはフィジカルアセスメントモデルPhysikoがある。機能はSCENARIOとは異なるが、院内でも実施できる研修もある。そのため他施設へ移動して行う研修の意義と目的、価値を明確にして研修を企画する必要がある。そのためには参加した看護師が、研修の学びを実践に活かすことができているかを評価し、今後の研修会の在り方を検討する必要がある。

おわりに

今回活用したSCENARIOは、シミュレーション教育の教材の一つとして活用されている。指導者はシミュレータを操作し臨場感のある研修を追求する

のではなく、人材育成の視点を持ち看護師の看護実践力を高め臨床で活かされる研修となるよう、対象者のニーズを把握し明確な目標とゴールを設定して研修を実施することが重要である。

引用参考文献

- 1) 阿部幸恵:新人・学生の思考力をのばす指導,日本看護協会出版会, p73, 2017.
- 2) 内藤知佐子, 伊藤和史:シミュレーション教育の効果を高めるファシリテータ Skills & Tips, 医学書院, 2017.
- 3) 前掲2)
- 4) 阿部幸恵:臨床実践力を育てる!看護のためのシミュレーション教育, 医学書院, 2013.
- 5) 大滝純司, 阿部幸恵, 監修:シミュレータを活用した看護技術指導, 日本看護協会出版会, 2008.
- 6) 宮川操, 田村幸子, 猪子美由紀他:附属病院を併設しない看護大学の学生のための高機能シミュレータを使用したシームレス教育の有効性, 徳島文理大学研究紀要, 第101号, p43-49, 令和3.3.